

下野市立祇園小学校

1 学校課題

自分のよさを生かし、互いに学び合い高め合う児童の育成
～他者を尊重し、コミュニケーションのよさを実感できる指導の工夫～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

子どもたちが「生きる力」を身に付け、個として確立すること、確立した個が身に付けた能力をさらに伸ばすことで自信をもち、そこで得た力がその後の自らの人生を切り開く力となっていくことを「自分のよさを生かす」と捉え、研究主題を構成する一つの視点とした。また、これからの社会を生きる中で出会う課題や困難を乗り越えていくためには、一人の力だけではなく、複数の力を合わせて立ち向かっていく必要がある。そのためには、学校教育において、他者の気持ちを理解し、互いに認め合える子どもたちを育てていくことが重要であると考え、「互いに学び合い高め合う」を研究主題のもう一つの視点とした。昨年度に引き続き、研究教科を外国語及び外国語活動、英語活動として研究を深めていく。これまでの研究で、授業において、相手意識・目的意識をもたせる工夫をすることで、主体的にコミュニケーションを図る子どもの姿が見られるという成果が得られた。研究の蓄積を生かしながら、他者を尊重し、コミュニケーションのよさを実感できるような指導の工夫にさらに取り組むことで、主題に迫りたい。

(2) 研究の仮説

外国語活動及び外国語科において、自分の思いを伝え合う喜びを実感できる言語活動を充実させ、児童が他者を尊重し、主体的に英語でコミュニケーションを図るような授業づくりをすることができれば、自分のよさを生かし、互いに学び合い高め合う児童を育成することができるであろう。

3 研究内容

(1) 具体的方策

- ① 単元計画の工夫
自分の思いを伝え合う喜びを実感できる言語活動を設定した。
- ② 他教科との関連
他教科の学習内容を生かすことで、外国語への積極性を高めた。
- ③ タブレットなど ICT を活用した授業実践
子どもたちの思考や表現を助けるツールとして、また、教師の効果的な指導のためのツールとして活用した。
- ④ Small Talk の充実
ALT との協働により、授業の流れに Small Talk を組み入れることを定着させた。児童が興味や関心のある身近な話題などを取り上げ、推測しながら聞かせたり、その話題について児童を巻きこんで話したり、児童同士でやり取りさせたりした。
- ⑤ お昼の放送「一口英語」
外国語主任と ALT とで簡単なフレーズ「一口英語」を給食時に毎日一つずつ紹介した。

(2) 授業公開を通じた主題への取組

- ① 研究授業
指導案検討は、奇数学年・偶数学年に分かれて行った。

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
11/22	5年	【This is my favorite place.】 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との関連 ・相手意識の工夫（英語でコミュニケーションDAYの活用） ・ワークシートの工夫
12/1	6年	【My Best Memory.】 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識の工夫（小中交流授業の実施） ・学校行事との関連 ・場の設定の工夫（相手を変えて何度も話す）

授業研究会では、参加者全員で子どもの学びの様子を見取り、語り合える授業研究会を工夫した。授業研究会で得たことを、明日からの授業に生かすため、各自、アクション宣言を書いて、見えるところに掲示したり、学習指導主任が通信としてまとめて配付したりした。



② 一人一授業公開

学校課題の具体的な方策を踏まえ、6月から12月までの間に、特別支援学級も含め、全学級で外国語に関する授業を公開した。年度当初に、水曜日の5校時を授業公開の日として時間割作成を行い、多くの教員が参観できるよう工夫した。また、学年で同じ単元を公開することとし、各学年でゴールを見通した単元計画ができるよう配慮した。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 話す内容について、他教科や学校行事と関連付けたり、ファイナルアクティビティの場として、英語でコミュニケーションDAYや中学生との交流を活用したりするなど、カリキュラムマネジメントを充実させることで、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童の様子がみられるようになった。目的、場面、状況を工夫したコミュニケーションの機会は、児童にとって、これまで学び、獲得してきたことをフル活用する生きた場面となった。
- ② 一人一授業公開は、教員にとって、全学年の授業を見ることができるようよい機会となり、系統性を意識することにも役立った。
- ③ お昼の放送「一口英語」は、聞いてまねをして言ってみたり、掲示板を見て進んで使ってみたりするなどの様子が見られた。学校全体で、外国語の学習に一生懸命取り組んでいく雰囲気づくりの一助となった。発達段階に応じた方法で、各学級の子どもたちも登場したので、高学年の児童への憧れの気持ちをもつ機会にもなった。

(2) 研究の課題

- ① やり取りを続けるためには、即興的な表現を無理のない形で蓄積していけるように、継続的に指導することが必要である。
- ② 他者を尊重するという点においては、自分が発信するだけでなく、他者の話をよく聞くということも大切になる。今後は、聞き方について焦点を当てた手立ても考えていきたい。